

# 森林の造成・維持管理手法の開発

環境共生プログラム・育林学分野 鵜川 信

<https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/env/agri0043/>

## 研究の背景および目的

森林は、木材生産の場であるとともに、水源涵養機能などの多面的機能を持ち、我々の生活に安定をもたらします。森林の機能を発揮させるためには、多くの森林を健全な状態に保つ必要があります。人工林の場合は、その造成と管理に関わる技術を向上することで、適切な森林管理が行うことができます。天然林の場合は、維持機構の解明を行うことで、よりよい状態で森林を保全することができます。

## おもな研究内容



■造林コストの削減を目標に、苗木の初期成長を促進させる視点で、コンテナ苗の施肥方法の開発や品種の成長量評価、早生樹の導入に関する研究に取り組んでいます。

■天然林の保全を目標に、各気候帯の天然林および二次林の維持機構（更新機構や養分獲得戦略）の解明に取り組んでいます。

## 期待される効果・応用分野

### ■人工林の造成・管理技術の開発

コンテナ苗の初期成長の促進技術の開発や下刈り作業の軽減化による造林コスト削減で、林業を支援できます。

### ■天然林の維持機構の解明

天然林の維持機構の解明は、保全技術の開発に繋がります。また維持機構が分かることで、対象となる天然林の状態に合わせた保全施策の高度化が可能になります。